

を
る
の
校
え
域
学
支
地

力

chikara

地域との絆を深め、学力向上に つながる学校支援地域本部事業 「丸付け先生」奮闘記

秋田県大館市立扇田小学校

本校の

「学校支援地域本部事業」

学校支援地域本部事業は、学校が必要とする活動について地域の方々が学校を支援する組織で、地域につくられた学校の応援団です。

本校では学校のシンボルとなつてゐる「槻の木」を名称に入れた「槻の木委員会」を組織し、保護者、地域住民、学校職員で構成しています。長い間本校を見守ってきた太くてたくましい槻の木のように、未永くいつまでも



ふれあい集会

学校を支えていきたいという願いが込められた組織です。月一回を目途に委員会を開催し、学校や子どもたちの様子、子どもたちや先生方

のニーズについて検討し、支援内容を決めてきました。教職員の負担軽減という面よりも、子どもたちに「充実した豊かな活動を」「そのための環境はどうあればよいか」に視点を当てて検討してきました。おもな支援活動は①学習支援活動、②環境整備、③登下校安全指導、④学校行事、⑤保護者・地域住民と一体となった豊かな体験の場です。環境整備では、校庭や花壇の整備を行い、登下校の安全指導は「キョロリン隊」と名付けたボランティア隊が警察や関係団体と連携し、登下校の見守りを行っています。学校行事や豊かな体験の場では、地域に住む音楽家によるコンサートや高齢者を招いたふれあい集会を行い、いずれも学校だけでは難しかった活動が実現しました。

丸付け先生の誕生まで

さて、核となる学習支援活動では、

二つの支援を企画しました。一つ目は専門家を招いての学習です。国語、図工、音楽等で知識や技能を生かした指導をしていただき、先生方では指導したい内容について大きな成果が見られました。

二つ目が、「誰でも気軽に学校に来て支援していただく」という本事業の趣旨を反映させる取組です。「何かの分野で学校のお手伝いをしたい」「学校の様子を知りたい、子どもの姿をみたい」と考える地域の方はたくさんいます。しかし、教職経験のない方々は、授業という尻込みしてしまがちで、なかなか支援といっても難しいのが本音でした。

本校では、パワーアップタイムという名称で毎週月曜日六校時に三年生以上、金曜日五校時に一・二年生が、国語や算数などの主要教科について回復や補充、深化により基礎的な学力の定着・向上を図る時間を設けています。

しかし、指導者の人数には限りがあります。特に、シート学習の丸付けの際には、先生の前に多くの子どもたちが列をなして並び、子どもたちは待ち時間のため問題を解く時間が減り、先生方は学習が進まない子どもへの十分な個別指導ができないという課題がありました。一人一人に目をかけるためには、地域の方々に学校に足を運んでいただき、支援してもらいたい、という先生方のニーズと地域の方々の思いが一致した瞬間です。さっそく、「丸付け先生」を提案し、コーディネーターが人材の手配を行い、パワーアップ「丸付け先生」の取組が一〇月からスタートしました。

「丸付け先生」の奮闘

当初、登録人数は八名で、打合せの際には次の点を確認しました。

①事前にシートの答えは教師が準備



ちょっとした励ましが大きな力になります

CRT検査 全国通過率との比較

	国語	社会	算数	理科
1年	+9.7		+7.4	
2年	+14.0		+11.8	
3年	+8.9	+8.7	+12.1	+8.5
4年	+7.1	+5.2	+8.8	+8.4
5年	+7.8	+9.0	+14.3	+9.2
6年	+7.1	+8.8	+10.6	+10.6

丸付け先生自身からは、「もう一度子ども時代にもどった感じがして楽しい」「前もって勉強していると丸付けももつとすらすらできたかな」「励まし方は分からないけど、子どもがうれしそうに顔を見るのがうれしい」「楽しい、張り合っている時間だった。特別

丸付け先生自身からは、「もう一度子ども時代にもどった感じがして楽しい」「前もって勉強していると丸付けももつとすらすらできたかな」「励まし方は分からないけど、子どもがうれしそうに顔を見るのがうれしい」「楽しい、張り合っている時間だった。特別

丸付け先生自身からは、「もう一度子ども時代にもどった感じがして楽しい」「前もって勉強していると丸付けももつとすらすらできたかな」「励まし方は分からないけど、子どもがうれしそうに顔を見るのがうれしい」「楽しい、張り合っている時間だった。特別

するので、不明な点はたずねる、②丸付けの際には子どもたちに一言話しかける、③本取組終了後は、子どもたちの様子や学習の内容について気軽に話しをする。

各クラスに二、三人の丸付け先生が入り、この取組が始まります。最初は慣れなかったものの、「よくできたね」「ちょっと勘違いしたのかな」と話しかけながら答え合わせ。時には「どうしてこう考えたの」と聞いたり、「向かいの家のお孫さんだね」と声をかけることもありま。

四五分間が終わると、全精力を子どもたちに注いだ「丸付け先生」たちは疲労困憊。それでも、子どもたちの「ありがとうございます」の声に笑顔が戻ってきます。

終わった後の反省会では、気付いた

ことなど、たくさん感想が出されます。

例えば、子どもたちの様子では、「心を落ち着かせてから始め、あいさつもすっかりしていた」「お願いします、ありがとうございます」、などの感謝の言葉が一人一人から聞かれた。「自分の力で最後まで問題を解こうとがんばっていた」。

先生方のかかわりでは、「ねらいと手立てが黒板に書かれていて、安心して丸付けができた」「先生方がいろんな面で気配りしてくれました」。

学習内容では、「こんなに難しい内容をやっているのかとびっくりした」「すぐに解ける問題だけでなく、結びつけて考えたり、情報をしっかり集めてやらなければならないものもあり、すごいと思った」。

な行事でなく、通常の学習活動に参加できて本当にうれしく思った」「子どもたちから町を歩いていても声をかけられることが増えた」などの感想が出されました。

「丸付け先生」の効果や成果

「丸付け先生」の取組以降、子どもたちの学習内容に深まりが見られただけでなく、さまざまな効果や成果が現れました。活動後、丸付け先生への子どもたちからの手紙には「いつもありがとうございます。前は丸付けを待つ列が長くて全部できませんでした。ほとんどできるようになりました」という声が寄せられました。

また、先生方は子どもたちの進み具合に応じて丁寧に指導することができています。

さらに、この取組の目的である基礎的学力の定着・深化という点ではどうだったでしょうか。

一昨年度（平成一九年度）のCRT検査の結果は、全学年トータル平均で、全国通過率との比較で十八・三ポイントで、おおむね良好なのですが、昨年度は十九・四ポイントを達成することができました。この取組だけの成果とは言えませんが、学力向上の一翼を担っていたことは確かです。

「丸付け先生」の今後